

第 2 2 回 花の国づくり共励会

**花き技術・経営コンクール
受賞者の業績概要**

平成 2 5 年 3 月

財団法人日本花普及センター

第22回花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール

表 彰 式

平成25年3月18日（月）13：30～
農林水産省共済組合「南青山会館」
東京都港区南青山5－7－10
TEL 03－3406－1365

表 彰 式 次 第

- 1 開会あいさつ
- 2 審査講評
審査委員長 日本大学生物資源科学部 教授 腰岡政二
- 3 賞状授与
農林水産大臣賞 2点
農林水産省生産局長 3点
財団法人日本花普及センター会長賞 2点
- 4 祝 辞
- 5 記念撮影
- 6 懇談会
表彰式と記念写真撮影の終了後、出席者による懇談会を開催

第22回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール

審 査 講 評

第22回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクールは、花の国づくり都道府県協議会などより推薦がありました経営体について、6名の審査委員による提出された書類に基づく第1次審査と、現地での第2次審査を通して厳正に行われました。その結果、本共励会の最高賞である農林水産大臣賞には、次の2経営体が選ばれました。

福島県東白川郡矢祭町の金澤美浩氏は、花き生産農家で1年間の研修を経て昭和49年に就農し、シクラメンを中心に鉢物栽培を始め、平成7年には有限会社「矢祭園芸」を設立しました。現在では、金澤美浩氏が経営全般と販売業務を、妻である由美子氏が経理と雇用管理を、長男夫婦が生産管理と電子化管理を担当しています。カーネーション、シクラメン、シュウメイギク、プリムラなど多品目・多品種の鉢物生産販売を手がけていますが、その間に、全国シクラメン品評会や福島県農業賞で農林水産大臣賞を受賞するなど、多くの賞を受賞しています。

就業面においては、金澤美浩氏を含めた家族5名に加え、雇用労働として、20人の常雇いを契約しています。従業員の休憩室を設けるなど長期雇用を目指した働きやすい職場環境作りに十分な配慮がなされ、労働保険、雇用保険、社会保険に加入するなど、地域雇用の活性化においても活躍しています。人事管理に当たっては、従業員には作業日報の記録と電子データ化を義務付け、お互いの作業の目視化と労力分散を図り、従業員の負担が均一になるようしています。これにより、省力化が図られ、個々の従業員が自身と責任を持って働ける環境を構築しています。

販売戦略においては、年間の生産品種の80%がオリジナル品種となっています。そのために、独立行政法人や公立の試験研究機関や民間種苗会社との共同研究により新品种の開発を進め、国内はもとより海外における種苗登録も取得しています。一方、宿根草の増殖については、組織培養を用いることで安定した品質の花き生産を目指しています。

経営面においては、長男である大樹氏の海外研修を通して輸出の促進を図るほか、電子データ化に取り組み、出荷への対応や年間を通じた生産計画が効率よく行われています。さらに、資材の在庫管理や荷造りと荷出し作業を連携させた作業管理により効率的な業務管理体制を整えています。

このように、鉢物生産経営において、オリジナル品種の育成により安定した生産・販売を維持していること、福島県の指導農業士に認定され花き園芸の振興に尽力していること、地域の雇用を創出していること、さらには、過去3年間の出荷数量、経営収支とも安定していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞に値すると判断されました。

愛知県知多郡南知多町の株式会社「豊楽園」（取締役会長齋藤豊治、代表取締役社長齋藤健治）は、齋藤豊治氏が昭和５３年に近隣農家とともに結成した農事組合法人「豊丘観葉組合」から規模拡大する形で平成３年に有限会社「豊楽園」を設立し、平成２１年に株式会社化しました。創始者である齋藤豊治氏が会長、豊治氏の長男健治氏が社長、次男の幸治氏が専務として親子２代にわたる観葉植物生産経営がなされています。当初は、４寸鉢主体の少品目・大量生産体制でしたが、現在では消費者ニーズを反映して、２寸鉢主体の多品目・少量生産体制に切り替え約６０種類の観葉植物を生産しています。

就業面においては、豊治氏を含めた家族５名に加え、１２人の常雇い、５人の研修生、数名の臨時雇いからなり、休日を定めるほか、有給休暇や各人の状況に即したフレキシブルな勤務時間を認めています。また、給与・賞与の支給、雇用保険、社会保険への加入、社員旅行や慰労会等の福利厚生活動を実施しており、長期雇用を目指した働きやすい職場作りに十分な配慮をしています。勤続２０年以上のベテラン社員が多く、これらの社員を核として栽培管理から商品組立まですべての作業ができるように社員育成をしています。

販売戦略としては、小鉢化と寄せ植えやトピアリー商品の開発に積極的で、装飾ポット、ラッピング等を組み合わせた商品の販売割合を高めることで、安値安定の観葉植物市場でデザインにより付加価値をつけた商品を積極的に販売しています。また、カラーカタログを常備し、インターネットを活用した小売店への直販や受注生産、卸売市場を通す場合には予約相対比率を高め、採算割れをなくすことで安定経営を実現しています。

経営面では、種苗生産コストやトピアリー生産コストの削減を考慮して、商品に使う資材の多くを中国での委託生産で行うほか、コンピュータによる作業や在庫管理をいち早く導入し、資材の在庫管理や荷造りと荷出し作業を連携させた作業管理により効率的な業務管理体制を整えることで、もの日への対応等、年間を通じた生産計画を効率よく行っています。

このように、観葉植物生産において、消費者ニーズに対応した付加価値のあるオリジナル商品作りを基に、積極的な情報発信を行うことで販売促進を図り、過去３年間に於いて出荷数量、経営収支ともに安定していること、地域の花き生産振興に寄与していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞にふさわしい花き生産の模範となる経営体であると判断されました。

農林水産省生産局長賞に選ばれました次の３経営体は、農林水産大臣賞に選ばれました経営体に収益性、あるいは、経営の安定性の上で僅かに及ばないものの、以下に述べる点で高く評価されました。

福岡県福津市の花田哲治・泰子夫妻は、バラとユリ類の複合経営を行っています。花田哲治氏は、昭和59年に就農しました。当時、両親は電照ギク、草花類を生産していましたが、新規作目に注目し、バラ栽培に取り組むことにしました。一方、花田泰子氏は、平成元年の結婚を機に就農し、その後、農作業に携わることで農業技術を習得しました。平成10年には、家族経営協定を締結することで、仕事の分担を明確にし、堅実な経営を維持しています。栽培技術においては、塩分濃度の高い地域で貯水プールを設置し、養液・廃液のpH、EC、含有成分の分析管理を行うことで、養液作成時間を大幅に短縮するとともに環境保全にも役立てています。アーチング栽培を用いた技術管理やヒートポンプの導入により10a当たり約10万本のバラ切り花生産が安定的に可能となっています。品種の更新においては、経営分析から品種別の収益性を判断するとともに、花市場や花商の意見を参考にすることで、改植品種を決定しています。鮮度保持の対策として、産地オリジナルのバケット型ダンボール箱を導入し産地評価を向上させました。また、地域において共販体制を確立し、出荷市場を絞り込むことで周年安定供給を達成しています。このように、安定した経営を実現し、地域農業の発展にリーダーシップを発揮していることが評価されました。

沖縄県糸満市の新垣進氏は、昭和48年に就農し、沖縄県花卉園芸農業協同組合の前進である花卉組合に加盟することで小ギク栽培を始めました。最初は、借地からスタートしましたが、現在では、組合員の平均を上回る3ha以上の規模で安定した経営を行っています。栽培に当たっては、平張施設を導入することによって、高品質花きの安定生産・計画出荷を心がけています。そのために、促進販売会議や圃場視察などの情報交換を行い、消費者ニーズに対応した品種の選定や販売戦略の展開を図っています。出荷においては、共選率97%、秀品率70%とともに高く、高品質生産を実践しています。また、花色バランスを考慮した作付けを行い、有利販売に努めています。労働改善の面では、選別や結束を機械化することで省力化や効率化を図り、常時雇用確保のために、作付体系の工夫、研修の実施、福利厚生の実施などに留意しています。環境保全に対しても、農薬飛散防止や減農薬に努め、エコ規格出荷に積極的に取り組んでいます。さらに、県の指導農業士として農業後継者の育成指導にも貢献するだけでなく、高い栽培技術、経営管理能力を有して高品質・高収量を収めるなど地域の農家の模範となっています。このような経営哲学を基に、安定した生産をあげていることが評価されました。

石川県金沢市のJA金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会は、昭和63年に設立された14戸からなる女性主体の部会であり、野菜と花きの複合経営の中でストック、フリージア、切花ハボタンを栽培しています。栽培面では、日本海型気候と砂丘地の特性を活かし、スプレーストックの直播栽培技術を確立することで切り花の品質向上と省力化を図り、フリージアでは石川県農林総合研究センターと連携をすることで県育成の新品種系統を導入し、切り花生産のみならず優良母球の増殖に取り組んでいます。

す。また、球根冷蔵処理を用いた促成栽培技術で収穫期分散による省力を図っています。ハボタンにおいても、気候や土壌特性を活かした高品質花きの生産と、スプレータイプやブーケタイプなどオリジナル商品の開発を行っています。出荷・販売面では、生産者と市場担当者による生育状況の合同目合わせ会や規格格付け講習会などによる調整方法の統一化、市場への出荷情報の提供、フラワーアレンジメント教室による消費者との交流、マスコミを通しての産地状況の紹介などの活動のほか、ウェディングフェアによる新規需要の開拓に取り組んでいます。花育活動の一環として、小学校での農業への理解促進と産地PR活動を行っています。このような地域の生産組織活動の活発化による生産創出とその維持が評価されました。

財団法人日本花普及センター会長賞に選ばれました次の2経営体は、以下に述べる点で評価され本賞に値すると判断されました。

佐賀県杵島郡江北町の坂井浩一郎氏は、25歳になった平成12年に就農しました。当初は、スイートピーとキクの複合経営を行っていましたが、現在ではキク主体の経営です。栽培面では、作付け前には土壌のpH、EC、硝酸体窒素の測定などを行い、適正施肥に努めています。また、灌水、防除、芽摘みなどの適期管理の徹底により、生育のバラツキが少なく、高い商品化率を実現しています。出荷は、個人出荷で九州圏が中心ですが、市場での販売活動を行うとともに、花屋での評価・要望の聞き取りなどを栽培時の参考としています。環境面では、ハウスの多層被覆化、多段式サーモの導入による変温管理、熱エコフィンを利用した暖房効率の高度化で省エネルギーを図っています。青年農業士として後輩の指導を行うなどの地域農業への貢献、農業活動への貢献などで地域における若手のリーダー的存在となっています。このように、キク専作で安定した経営を実現し、地域農業の発展に貢献していることが評価されました。

岩手県一関市のいわい東農業協同組合花き部会小菊専門部は、平成12年に設立されました。同地域は葉タバコの栽培が主でしたが、露地転作品目として小ギクを昭和62年に導入し産地化を図りました。部会では、ベテラン農家や中核農家が新規栽培者の技術指導をするほか、試作品種の普及性の判断による推奨品種の選定や、無摘心栽培や長期出荷技術などの既存技術の改善や新規技術の導入に関する検証試験を行い、技術の普及性の検討を実施しています。それにより、7月出荷が実現し新盆需要期に対応しています。環境保全の面では、発生予察圃での適期防除判定による害虫防除や生分解性マルチの導入による廃プラスチックの排出抑制に取り組んでいます。労働改善の面では、出荷調整機械や自走式防除機を導入することで省力化を図り、大型低温貯蔵庫や保冷車の整備で品質保持を、市場や消費者への情報発信でPR活動を行っています。このように、地域の生産組織活動の活発化による花き生産の維持が評価

されました。

日本経済は政府の経済対策により漸く回復の兆しにあるとは言え、農業を取り巻く環境と同様に、花き産業においては依然厳しい状況にあります。そのような中で、国内外の花き審査・種苗審査において、わが国の花き栽培技術・育種技術が高く評価されているのが救いと言えます。それを反映して、今年度の審査においても生産額や収益を着実に伸ばしている経営体の推薦が多数あったことに心強く感じました。そのような経営体では、栽培技術の高度化により生産効率を高めるとともに、生産コストの低減や環境負荷の低減に努める一方、消費者ニーズに合う品目・品種の選択、あるいはオリジナル品種の育成、さらに新しい需要の開拓にも力を注ぎ、地域の活性化や雇用の創出にも努力をされていることには、頭が下がる思いがしました。

受賞者の皆様には心からお祝いを申し上げますとともに、わが国の花き産業の発展のため、今後とも一層のご尽力を賜りますようお願いし、審査講評といたします。

平成25年3月18日

審査委員長

腰 岡 政 二

第 2 2 回花の国づくり共励会
花き技術・経営コンクール 受賞者一覧表

【農林水産大臣賞】

- ◎金 澤 美 浩 （かなざわ よしひろ）
（有限会社矢祭園芸 代表）
〒963-5113 福島県東白川郡矢祭町大字下関河内字下古宿 8
- ◎株式会社 豊楽園 （かぶしきかいしゃ ほうらくえん）
（取締役会長 齋藤 豊治、代表取締役社長 齋藤 健治）
〒470-3411 愛知県知多郡南知多町大字豊丘字浜見台 1 0 9 - 2

【農林水産省生産局長賞】

- ◎花 田 哲 治 （はなだ てつじ）
花 田 泰 子 （はなだ やすこ）
〒811-3307 福岡県福津市渡 7 9
- ◎新 垣 進 （しんがきすすむ）
〒901-0351 沖縄県糸満市字西崎 2 - 1 6 - 6
- ◎J A 金沢市 砂丘地集出荷場フラワー部会 （じえいえいかなざわしききゅうち
しゅうしゅつかじょうふらわーぶかい）
（部会長 西村俊雄）
〒920-0371 石川県金沢市下安原町西 1 7 6 番地

【財団法人日本花普及センター会長賞】

- ◎坂 井 浩 一 郎 （さかい こういちろう）
〒849-0505 佐賀県杵島郡江北町下小田 4 9 2
- ◎いわい東農業協同組合 花き部会小菊専門部 （いわいひがしのうぎょうきょう
どうくみあい かきぶかいこぎくせんもんぶ）
（代表 加藤賢一）
〒029-0523 岩手県一関市大東町摺沢字菅生前 6 1 - 4

【農林水産大臣賞】

金 澤 美 浩（有限会社矢祭園芸 代表）（福島県）

鉢物・苗物（カーネーション、ガーデンカーネーション、シクラメン、八重咲ミニシクラメン、シュウメイギク、プリムラポリアンサ、プリムラマラコイデス、プリムラシネンシス等）

金澤美浩氏は、昭和49年に就農し、農業後継者育成資金を借りて100坪の鉄骨ハウスを建設し、シクラメンの栽培を開始した。氏が居住する矢祭町は、福島県の最南端に位置しており、気象は、表日本型に属し比較的温暖で積雪は少ない。

就農当時は、郡内に花き生産者は無く、このため就農前の1年間研修を受けた小名浜市の農家に頻繁に通い、教えてもらいながら栽培に取り組んだ。就農2年目に100坪の鉄骨ハウスと50坪のビニールハウスを増設、出荷期になると両親に管理を頼み、一人の力では限界を感じることも多かったが、市場に行くと各地の生産者や市場職員と知り合いになり、栽培の話、販売の話を聞くことができ貴重な情報源となった。

また、4Hクラブ活動に参加して東白川農業改良普及センターを知り、病虫害防除や花き栽培資料の提供を受けて科学的な対処法を学ぶとともに、自ら頑張る様子を見ていた両親と近所の人達の協力により次第に経営が安定した。

就農して10年目（昭和50年）頃からは栽培方法も身に付き、シクラメンの品評会で入賞するようになった。シクラメンの裏作にプリムラやサイネリア、アジサイの鉢物のほか、市場の要望から花壇苗や野菜苗を大量に生産するようになった。ポット苗を生産することでハウスの生産効率が上がり、販売店やチェーンストアから直接注文がくるようになり市場出荷と配達に忙しくなった。

昭和56年12月から翌年3月にかけて記録的な大雪（五六豪雪）にみまわれ、2棟が雪につぶされたが、58年と62年に鉄骨ハウスに建替え、これにより灰色カビ病等栽培上の問題解決にもつながった。一方、それまでビニールハウスでの温度や湿度管理に苦慮していたが、そのような環境の中でも灰色カビ病に強い個体もみられ、ビニールハウスという環境条件下に合った品種の選抜を始めることにもなった。

平成元年には、近隣の4Hクラブの仲間呼びかけて「矢祭鉢物研究会」を立上げ、多品目、高品質、多量生産の産地を目指し、会員には、自らがこれまで培ってきた技術や品種についての情報は全てオープンにした。氏は、多くの種苗登録品種を育成しているが、品種改良の目的は、種子や種苗の販売のためではなく、少しでも高品質な商品を出荷することにある。この経験は、同鉢物研究会を立ち上げる際に、産地のオリジナル商品として他産地との差別化に大きく貢献することができた。自らの経営については、生産や販売規模が年々大きくなり、今までの体制では細部までの管理ができなくなってきたことから、平成7年に「有限会社矢祭園芸」として法人化した。これにより生産と育種と商品開発に専念できるようになり、販売は後継者が担当することになっている。

金澤氏は、当該地域において初めて施設化による花き栽培に取り組み、意欲的に技術習得や新品種育成、販路開拓に努めるとともに、規模や品目の拡大を図り、雇用労力を活用した企業的経営の実践により経営の安定化を実現している。また、県の花き

産業振興のため、地元での生産者の増加と組織化をすすめ、県域での組織設立に寄与するとともに、地域活動への参加協力、全国的な花き産業の発展にも寄与している。



金澤美浩・由美子夫妻（有限会社矢祭園芸の育種専用ハウスにて 交配作業中）



スタッフの作業管理表（朝礼時に記入・確認後データ化）



E Uへ輸出されているシュウメイギク

【農林水産大臣賞】

株式会社豊楽園（取締役会長 齋藤 豊治、代表取締役社長 齋藤 健治）（愛知県）
鉢 物（フィロデンドロン、フィットニア、プミラ、ワイヤープランツ、シンゴニウム、ペロミア、モンステラ、カミラ、コーヒーノキ、ホンコン、テーブルヤシ、アロカヤシ、クロトン、クワズイモ、シュガーバイン、ベンジャミン、サンセベリア、パキラ、ガジュマル等）（観葉植物 約60種類）

齋藤豊治氏は、生家が水稻と露地野菜の生産農家であったが、昭和30年代生活の洋風化が徐々に進んでいる状況から観葉植物に将来性を見出し、観葉植物生産農家での研修後昭和39年に就農し、同時にビニールハウス200㎡を建設して観葉植物の経営を開始し、以後、計画的に規模拡大を行なった。

齋藤氏の技術・経営の特徴として上げられることは、次のとおりである。

第1に経営開始時に建設したビニールハウスは、昭和30年代後半に開発されたばかりの半鉄骨丸屋根ビニールハウスで、知多地域においていち早く導入した。

また、栽培ベンチの棚上・棚下の両方を利用した年3作ローテーションの栽培体系の確立、輸入苗の導入、標準鉢用土やプラスチック鉢の開発など、今も周辺の生産者に影響を与えている栽培技術の開発・確立に尽力し、当地域の観葉植物生産の礎を築いたといえる。第2に時代とともに変化する消費者ニーズを敏感に感じ取り、経営開始当時の少品目・大量生産から多品目・少量生産へと経営形態をシフトさせてきた。また、生活スタイルの変化に伴い、小鉢化も進めている。更にラッピングや飾り（トピアリーなど）、寄せ植え等に工夫をこらしたアレンジ商品を次々と開発し、付加価値のあるオリジナル商品を多数手がけている。

第3に販売促進の重要性を早くから認識していたため、長男健治氏の就農の頃から、オリジナルのカタログを作成するなど積極的に情報発信を行っていた。営業部長として就農した次男孝治氏の営業努力により販売店等からの直接注文が次第に増え、年々売上高を伸ばしている。

第4には場整備事業を契機に農地の集団化を進め、観葉植物団地を立ち上げ設立した農事組合法人「豊丘観葉組合」の組合長として、観葉植物生産の経験のない生産者の栽培指導など献身的に行い同法人を軌道に乗せたことをはじめ、知多地域花き組合連合会の役員として、勉強会を通じた技術レベルのアップや地域全体の交流の活発化、需要拡大への取組などに主導的な役割を果たし、知多地域のみならず愛知県全体の花き生産振興に寄与している。なお、長男健治氏は、就農前2年間花き専門市場に就職し、仕事を通じて花きの流通、販売、業界の動向等を学び、平成7年に有限会社豊楽園に就農、その後は、南知多4Hクラブ会長、知多花き連観葉植物部会会計担当、JAあいち知多南知多事業部青年部会長に就任し、地域・社会活動に積極的に参画するとともに、平成21年に株式会社豊楽園に商号変更と同時に社長職に就任した。

同社では、雇用労力を効率よく働かせるため商品作成から出荷までの一連の流れが社員に分かり易くなるような出荷管理システムを開発しており、社員は保険制度に加入し、6名の社員が20年以上継続して働いている。今後は、安定経営と雇用労働配分の平準化のために物日以外にも売れる魅力ある商品の開発、大規模な商品展示会の開催、栽培ロス率の低下を図るための改善にも取り組むことにしている。



株式会社豊楽園スタッフ（前列の左から3人目 齋藤豊治会長 4人目 齋藤健治社長）



豊丘観葉団地の施設群



作業場内で商品組み合わせ作業

季節に対応
した多様な
商品構成



フィロデンドロ
3～10月



フィトニア・ピンクスター
4～10月



フィトニア・ホワイト
4～10月



フィトニア・レッドスター
4～10月



アマ
ほぼ周年



アンテラ
11～6月



カンザシア
ほぼ周年



ワイヤープランツ
ほぼ周年



ビレ
3～9月



ハーフレック
3～10月



シャムリゲル
4～9月



シンゴキ
3～10月

【農林水産省生産局長賞】

花 田 哲 治 花 田 泰 子（福岡県）

切り花（バラ、ユリ）

花田哲治氏は、昭和59年に就農したが、就農前に1年間大型量販店に勤務した経験がある。両親は、電照ギク、草花類を生産していたが、哲治氏は津屋崎地域にはない品目を栽培したいと思い、花市場、花商等から情報収集を行い、将来の需要や経営面を考慮した結果、バラ栽培に取り組むことにした。就農当初よりバラ土耕栽培を開始、その後、バラに加えて両親が栽培していたユリ類、グラジオラス栽培を引継いだ。昭和63年～平成7年にかけて農業後継者育成資金、JAリース事業、県単事業を活用し栽培面積を拡大した。販売金額の増加により平成5年と平成12年には、福岡花市場より売上表彰を受け、また、氏のバラ栽培をモデルに周辺の農家もバラ栽培に取り組み始め、県内でも有数のバラ産地となった。平成13年～17年にかけてバラの高品質安定生産、作業効率化を目指して土耕栽培からロックウール栽培へと順次切り替え、平成19年から重油高騰対策及び品質向上を目的にヒートポンプを導入した。花きの栽培歴は28年目となり、バラとユリ類を組合せた経営を行なっている。

花田泰子氏は、平成元年、哲治氏との結婚を機に就農、夫婦一緒に農作業に携わりながら農業技術を習得した。平成10年に泰子氏と夫、母の三者で家族経営協定を締結し、泰子氏は、主に雇用管理や経理部門を担当し堅実な経営を支えている。

栽培技術面で工夫している点は、施設が海岸に近く地下水は塩分を含んでいるため雨水を利用し、低温期における切り花本数を確保するため栽植密度や樹勢維持のための仕立て本数、養液管理等を工夫している。この結果、県の指針の1・2倍以上の出荷量を確保するなど栽培技術も高い。また、低コスト及び省エネルギーの観点からヒートポンプを地域の中でも率先して導入し、重油使用量を70%削減したり、鮮度保持対策として湿式輸送にも取り組み、オリジナル段ボール箱を導入し品質向上を図るなど先進的な技術にもいち早く取り組んでいる。

出荷・販売面では、毎年、福岡花市場で行われるバラ品種説明会に出席して、種苗会社の担当と意見交換を行なうことで積極的に情報収集を行うほか、地域の生産者を安定出荷により市場評価向上のため、共販体制を作り上げている。労働軽減や雇用管理では、適期防除、ヒートポンプによる除湿により病害発生を低減しており、薬剤防除はウドンコ病のみに絞って予防散布を行っている。作業の効率化のために雇用を導入し、雇用者の技術向上を図ることによって、日常の整枝、芽摘み等の栽培管理を自発的に行うまでになり、夫婦は品質管理上必要な収穫調製作業に専念することが可能になった。

地域社会活動では、小学生のフラワーアレンジ教室の指導や、中学生の農業体験の受け入れを行うなど花育活動を実施している。哲治氏は、JAむなかた花き部会長、バラ部門長を歴任し、バラ生産のリーダーとして部会員に経営及び技術面でアドバイスを行い、泰子氏は、直売所「あんずの里」の梅津地区支部長を歴任している。

更に、息子が大学卒業後の来春より花き農家へ研修に行く予定であり、確実に後継者も育っていることに加え、哲治氏の影響を受けて弟や近郊農家も新たに花き生産に取り組むなど、地域において大きく貢献している。

【農林水産省生産局長賞】

新 垣 進（沖縄県）

切り花（小ギク）

新垣 進氏は、昭和48年に就農し、沖縄県花卉園芸農業協同組合の前進である花卉組合に加盟、同組合の指導を受けながら小ギク作りを始めた。最初は、借地からスタートし、現在は、組合員の平均規模を大きく上回り、雇用を投入しながら安定した経営を行なっている。新垣氏が農業に従事した当時は、地域では野菜の産地であったが、生産者自らが野菜を市場まで運び、自分で販売していた。そのため労働時間が長く、後継者に引継ぎにくい作目であった。そこで、若い後継者に魅力ある農業として、若い生産者4名で糸満支部を設立して小ギク作りに取り組んだ。栽培に当たっては、夏秋期の台風、病害虫等の被害を軽減するため平張施設を積極的に導入することによって、高品質花きの安定生産・計画出荷を心がけており、また、月齢（新月・満月）を考慮して適宜に農薬散布を行なうことにより、効果的な防除体系を確立しているほか、定植前の殺菌剤処理を確実にこなうことにより、立ち枯れ防止を図っている。品種は、系統選抜を行い優良株の確保に努め、色バランス（赤・白・黄）を考慮した作付けを行ない有利販売を行なっている。

出荷・販売に当たっては、常に高品質、安定出荷を目指し、組合が市場を招いて開催する販売促進会議（11月・2月）に他産地の状況、圃場視察案内などの情報交換を行ない、消費者ニーズに対応した品種の選定や販売戦略の展開を図っている。新垣氏は、共選率97%、秀品率70%と組合の平均値よりも高く、高品質で安定した出荷を行なっており、産地としても小ギクの拠点産地として県の認定を受けている。

労働改善の面では、結束バインダー（コンベアーに乗せるだけで、カット、下葉取り、結束が1台でできる万能タイプの花束処理装置）を導入し、選別を機械化することによって、選別・結束作業の省力化・効率化を図り、品質管理に力を入れ所得向上を図っているほか、常時雇用を確保するため、作付体系の工夫、国外・国内研修の実施、福利厚生の実施等に留意している。

環境保全では、圃場周辺への農薬飛散防止のため、壁（ネット、フェンス等）の設置を行い、防風・防虫平張ハウスの導入により減農薬に努め、エコ規格出荷（草丈を標準規格より大ギク10cm、小ギク5cm短くして、脱葉を行いゴミ処理の削減を行なう。）に積極的に取り組んでいる。

新垣氏は、積極的に組合の視察研修等に参加して、他地域の生産状況・市場動向などを学び、高い栽培技術、経営管理能力を有して他の農家の模範となっている。地域のまとめ役、組合とのパイプ役として平成3年から6年まで支部長を務め、平成11年から3期9年に亘り県花卉園芸農業協同組合の理事としても活躍し、長年花き生産の発展に尽力しており周囲からの信頼も厚い。また、県の指導農業士として農業後継者の育成指導にも意欲的で、農業への思いも熱く、地域の高校生の農業研修、県内・県外からの視察も積極的に受け入れている。

今後は、価格低迷や生産コストの上昇により経営状況が厳しい中で、秀品率のアップにより所得の向上を目指しており、夏秋小ギクの8月お盆向け生産と次男の独立経営に向けて規模拡大に取り組むことにしている。

【農林水産省生産局長賞】

J A金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会（代表者 西村俊雄）（石川県） 切り花（ストック、切花ハボタン、フリージア）

J A金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会は、昭和63年に設立し、J A金沢市安原支店内に事務所を置く14名の組織である。全員が2～4品目の露地並びに施設野菜を生産する野菜専作農家で、別の部会にも属している。ハウスの連作障害回避や冬期の所得確保のため、新たに花き部門を導入し、野菜と花きの複合経営を行なっている。

フラワー部会は、女性が8名と多く、取組む前から花が好きだった生産者が集まり、消費者の目線で細やかな栽培を行なっている。栽培環境は、夏は気温が高く、冬は積雪が多く日照時間が少ない典型的な日本海側気候と水はけがよく、肥効調節しやすい砂丘地の特徴を活かし、ハウスのスイカ、キュウリなどの後作として7月から翌年4月にわたってストック、切花ハボタン、フリージアなど数品目を栽培している。

ストックについては、作付面積が大きいことから収穫時期が集中し、作業に追われることもあって、収穫適期が長いスプレーストックを導入し労働分散を行なった。栽培方式についても購入セル苗を利用した移植栽培を行なっていたが、種苗費が高く、定植時期も8月中旬～9月上旬に集中し、時間的・体力的に大きな負担となっていた。また、夏の炎天下の作業は、作業精度が落ち、苗の活着率が低下するなど栽培に影響がでやすいので、石川県農林総合研究センターの技術支援を受けながら平成19年から22年にかけて直播栽培の確立と定着に向けて取組んだ。直播栽培の導入によって、種苗費、労働費の節減が図られ、品質面においても発芽率、八重率ともに高く、商品化率が向上した。この結果、平成23年には、全作付面積300aの98%が直播栽培に切り替わり、短期間に直播技術が産地に定着した。

切花ハボタンについては、平成19年からストックに続く有望品目として本格的に取組んでいる。秋冬の寒さにより鮮やかで美しい色になるため、日本海側気候に適しており、野菜栽培で培ったテープシーダーによる直播技術により平成23年には作付面積65aに拡大した。砂丘地の特性を活かし花が小さく、茎が細く硬いものを作ることができる。また、パイプハウスで栽培しているため、気象災害を受けず、茎の曲がりや葉の傷みのない高品質の商品を生産することができる。スプレータイプやブーケタイプのオリジナル商品づくりについても実需者の意見を聞き工夫している。

フリージアについては、日本海側気候を活かしたフリージアの導入を図るため、県農林総合研究センターが育成した「エアリーフローラ」の導入、球根冷蔵処理による促成栽培の導入と作期の前進化、優良母球の増殖に取組んでいる。

部会長は、女性の意見を尊重し、女性が活動しやすい部会運営を行なっている。部会員にはほぼ全員に後継者がおり、子世代は当地区の基幹品目であるスイカ、ダイコンを栽培し、親世代は花きを栽培するということに親子間で栽培部門の棲み分けを行なっている。親世代が基幹品目から退き花きを栽培することで、早い段階で後継者に基幹品目を任せ、地域のリーダーとしての自覚と責任を持たせている。また、子供達へ花にふれあう機会を提供し、花育活動にも取組んでいる。

今後、更に産地の発展を図るため、具体的な数値目標を掲げ部会活動を行なうとともに、花き栽培に真剣に取組む人を継続的に発掘・確保することになっている。

【財団法人日本花普及センター会長賞】

坂 井 浩 一 郎（佐賀県）

切り花（キ ク）

坂井浩一郎氏は、平成12年、25歳の時に就農した。就農当時は、スイートピーとキクの複合経営を行っていたが、年間を通じて単価が安定しているキクの面積を拡大し、現在は、キク主体の経営である。

栽培しているハウスの周辺は、土地が低く、近年の夏期の集中豪雨によって畦上部まで冠水することもあり、更に水はけの悪い土壌条件も重なって24時間畦が冠水して根腐れ、根傷み等の問題も発生した。そのためハウスの周囲をブロックで囲って雨水の浸入を防ぐとともに、浸水した場合は強制排水し、根傷みを防止した結果、出荷本数が増加し、商品化率も向上した。作付け前には、毎回、土壌のpHとEC、硝酸態窒素を測定し、肥料の過剰施用とならないよう低コスト化に努めている。適正施肥を実践しているため、「坂井氏のキクは、茎葉のバランスがよく、草姿に優れ、日持ちもよい」と実需者から高い評価を受けている。

種苗は、秋ギクについては自家増殖でなく購入穂を使用している。種苗代はかかるものの苗圃ハウスを確保する必要がないためにその分栽培圃場に回せること、育苗にかかる労力、コストを削減している。水管理は、頭上かん水だけでなくハウスの乾きやすい箇所には手かん水を行ってかん水ムラをなくすなど、細やかな管理を行っている。また、常にハウス内で作業・観察しているために病気や害虫の発見が早く、防除を直ぐに行うことで病気の蔓延や害虫の発生を防いでいる。芽摘み作業が遅れると跡が残って外観品質が低下してしまうので、早めの芽摘みを心がけており、時間をかけて丁寧に行なっている。これら適期管理の徹底により全てのハウスで生育のバラツキが少なく、ほとんど全ての株を出荷できており、高い商品化率を実現している。

出荷は、個人出荷で九州・山口を中心に出荷しており、定期的に取り引市場に足を運び、自身のキクを売り込むとともに、花屋の評価や要望等について聞き取って栽培時の参考にしていく。

労働管理では、家族やパートの労働が過密にならないよう普段から気を配り、収穫と定植が重ならないように配慮している。ハウスは、多層被覆化を進めるとともに、多段式サーモを導入して変温管理を行い、また、平成22年には全ての暖房機に熱エコフィンを取り付け暖房効率を高め、重油使用量を従来の約3割削減を行った。

坂井氏は、江北町の青年農業者で構成する「江北町農業新経営者クラブ」の初代会長、武雄・杵島地区農業青年クラブ「TKアグリマネージメントクラブ」の副会長を務めるなどクラブ運営やクラブ員の連携強化に貢献したほか、平成16年～18年には青年農業士として後輩の指導等を行うなど地域農業の発展にも貢献している。氏は、県内のキク生産者の中では若手であるが、多くの生産者がハウスの見学に訪れ、栽培技術について意見交換を行なうなど若手のリーダー的存在である。

今後は、ハウスの改修が必要になってくるが、改修の際には、台風に耐えうる硬質フィルムハウス等にする予定であり、計画的な高品質キク生産を目指してハウスの温度管理と重油使用量の低減を一層工夫する。また、集中豪雨によって畦上冠水を防ぐため、客土して土地を30cmほど高めるなど大雨対策を講ずる考えである。

【財団法人日本花普及センター会長賞】

いわい東農業協同組合花き部会小菊専門部（代表者 加藤賢一）（岩手県）
切り花（小ギク）

J Aいわい東花き部会の地域は、岩手県南部に位置している。元々葉タバコ栽培の盛んな地域であったが、葉タバコ生産の減少に伴って、新たな転作物目の導入を模索した中で、葉タバコ跡地への作付けが直ちに可能で、同じ露地栽培品目である小ギクに注目して昭和62年に導入試作したことが産地化のきっかけとなった。

当初は、組織的な活動も十分に行なわれなかったが、技術の向上に伴って徐々に生産額が上向きとなり、経営が成り立つ品目として生産者から認知され、栽培者数が増加し、産地として知名度も上がり、共販体制や指導体制の強化のため生産組織活動も活発となった。平成9年の農協合併を機に準備を進め、平成12年に花き部会並びにその下部組織である小菊部会が設立され、より専門性の高い組織活動が行なわれるようになり、生産力、販売力を更に高めていった。現在、部会員194人で構成し、出荷量・販売額ともに岩手県内でトップとなり、夏秋期における国内有数の産地に成長している。

部会の事務局は、農協園芸課の花き担当職員が当たっているが、原則として、部会役員会の意思決定に基づき事務運営を行なっている。部会では、ベテラン農家や中核農家を「小菊生産推進員」に委嘱し、担当地域の指南役としてきめ細かな技術指導や新規栽培者への推進を図っているほか、「品種選定委員会」を設け、試作品種の特性や普及性の判断を行ない、毎年策定する推奨品種一覧に反映させている。また、若手生産者が中心となって「担い手班」を立ち上げ、これまで部会員がほとんど取り組んだことのない無摘心栽培や単一品種での長期出荷技術など既存技術の改善や新規技術の導入に関する検証試験を行ない、技術の普及性の検討を行なっている。共販活動については、年2回出荷目揃会を開催して、出荷規格の確認を行なうほか、出荷に先立ち、集出荷場において部会役員または検査員によって出荷物の検査を行ない、品質管理を徹底している。

岩手県において7月の新盆需要期に出荷する場合、ハウスによる半促成栽培が一般的であるが、当地域では、露地栽培で通常8月出荷よりも早期に定植し、1か月程度ポリフィルム等による簡易トンネル被覆を行なって、7月出荷を実現している。なお、平成22年にそれまで問題にならなかったオオタバコガが激発し、食害によって出荷に大きく影響したことから、平成23年より農業改良普及センターと連携してフェロモントラップによる発生予察圃を設置して適期防除判定を行ない被害を防いでいる。また、環境保全の面では、生分解性マルチを導入し、廃プラスチックの排出抑制に取り組んでいる。

労働軽減の部面では、フラワーバインダー（出荷調製機械）や自走式防除機の導入を促進し、省力化を図るとともに、出荷販売の部面では、大型低温貯蔵庫の整備、保冷車の利用による品質保持、市場への迅速の情報発信、消費者への花きのPR活動にも努めている。今後は、高齢化に伴い栽培面積の維持が課題となっていることから、新規栽培者の確保や集落営農組織による花きの導入促進等に向けて取り組むことにしている。

(参考資料1)

花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール受賞者一覧

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備 考
22回(24年度)	農林水産大臣賞	福島県	金澤 美浩	カーネーション、シクラメン、シュウメイギク、プリムラ等鉢物・苗物	
22回(24年度)	農林水産大臣賞	愛知県	株式会社豊楽園 (取締役会長 斎藤 豊治) (代表取締役社長 斎藤 健治)	フィロデンドロン、フィットニア、プミラ、ワイヤープランツ、シンゴニウム等観葉植物(鉢物)	
22回(24年度)	生産局長賞	福岡県	花田 哲治 花田 泰子	バラ、ユリ(切り花)	
22回(24年度)	生産局長賞	沖縄県	新垣 進	コギク(切り花)	
22回(24年度)	生産局長賞	石川県	JA金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会(代表者 西村 俊雄)	ストック、ハボタン、フリージア(切り花)	
22回(24年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀県	坂井 浩一郎	キク(切り花)	
22回(24年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岩手県	いわい東農業協同組合花き部会小菊専門部 (代表者 加藤 賢一)	コギク(切り花)	
21回(23年度)	農林水産大臣賞	佐賀県	小柳 誠五 小柳 一枝	ユリ(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	神奈川県	有限会社五領ヶ台ガーデン (代表取締役 窪田敬一)	シクラメン、ニューギニアインパチェンス、ナスタチューム、プリムラジュリアン等(鉢物)	
21回(23年度)	生産局長賞	愛知県	稲垣 長太郎	カーネーション(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	長崎県	有限会社金原園芸 (代表取締役 金原 由紀男)	キク(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	熊本県	坂崎 改輝 坂崎 久子	シュコンカスミソウ(切り花)	
21回(23年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	埼玉県	吉澤 明弘	シクラメン、ハイビスカス、オステオスペルマム、ビオラ、クリサンセマム等(鉢物)	
21回(23年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	福岡県	牛島博文	ガーベラ(切り花)	
21回(23年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐阜県	JAひだ花卉出荷組合菊部会 (代表者 野谷 智樹)	キク(切り花)	
20回(22年度)	農林水産大臣賞	埼玉県	有限会社横川花園 代表取締役 横川 保次	ユリ、チューリップ、ギボウシ等(鉢物)	
20回(22年度)	生産局長賞	岐阜県	河合 修	アルストロメリア(切り花)	
20回(22年度)	生産局長賞	福岡県	安田 克徳 安田 節子	サカキ、花桃、ニューサイラン、しめ縄、門松、松竹梅等(花木・枝物類)	
20回(22年度)	生産局長賞	長崎県	山口 政則 山口 和代	カーネーション(切り花)	
20回(22年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	愛知県	伊藤 正規	シンビジウム、コチョウラン、ミルトニア(鉢物洋らん類)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	埼玉県	塩原 茂夫	アジサイ、ポインセチア(鉢物)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	大分県	有限会社お花屋さんぶんご清川 代表取締役社長 小久保 恭一	リングク(切り花)	第49回農林水産祭 天杯受賞
19回(21年度)	生産局長賞	宮城県	石巻農業協同組合 花卉部会ガーベラ班	ガーベラ(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	愛知県	櫛田 倉司	リングク(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	大阪府	梶本 定敏	ユリ、アイリス等(球根切り花)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	愛知県	小松 英雄	アンズリウム(鉢物)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	福岡県	浜野 重登 浜野 明美	バラ(切り花)	
18回(20年度)	生産局長賞	埼玉県	安藤 貢	アガパンサス等(苗物)	
18回(20年度)	生産局長賞	岐阜県	有限会社サンコフ	セントポーリア等(鉢物)	
18回(20年度)	生産局長賞	大阪府	稲治 義彦	シャクヤク等(露地花き)	
18回(20年度)	生産局長賞	長崎県	柴田 定實 柴田 富子	キク(切り花)	
18回(20年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀県	石井 克明	バラ(切り花)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	埼玉県	黒白 秀之	コチョウラン(鉢物)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	岐阜県	吉田 正博	ガーベラ等(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	千葉県	平野 圭祐	アンズリウム(切り花)	
17回(19年度)	生産局長賞	神奈川県	加藤 悟	シンビジウム(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	愛知県	平野 和美 平野 照美	ポインセチア等(鉢物)	
17回(19年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀県	石橋 正基	カーネーション(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備 考
16回(18年度)	農林水産大臣賞	千葉県	丸朝園芸農業協同組合 花卉部 (部長)飯高 重雄	サンダーソニア等(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	福岡県	空閑 善実 空閑 桂子	パンジー等(苗物)	
16回(18年度)	生産局長賞	鹿児島県	サンライズグリーンヒル観葉生産組合 (代表者)福留 健一	オーガスタ等(観葉植物)	
16回(18年度)	生産局長賞	愛知県	伊藤 勝久	シクラメン等(鉢物)	
16回(18年度)	生産局長賞	長崎県	立石 俊一	バラ(切り花)	
16回(18年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岩手県	澤瀬 一男 澤瀬ロシタ	コギク等(切り花)	
16回(18年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	大阪府	大 阪	パンジー等(苗物)	
16回(18年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀県	佐 賀	キク(切り花)	
15回(17年度)	農林水産大臣賞	埼玉県	田島 嶽	ガーデンシクラメン(苗物)	
15回(17年度)	生産局長賞	群馬県	小倉 文雄	シクラメン等(鉢物)	
15回(17年度)	生産局長賞	愛知県	内藤 完次	バラ(切り花)	
15回(17年度)	生産局長賞	長崎県	JA壱岐市花き部会 (代表者)下條 利一	コギク等(切り花)	
15回(17年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐阜県	高木 兼雄	スパティヒラム(鉢物)	
15回(17年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	沖縄県	玉城 昌伸	キク(切り花)	
15回(17年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	沖縄県	蔵下 良彦	キク(切り花)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	東京都	八丈島農業振興青年研究会 鉢物部会 (代表者)大沢 猛邦	フェニックス等(鉢物)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	岐阜県	株式会社西垣園芸 西垣 正俊	オステオスペルマム(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	宮城県	株式会社ハニーローズなんごう (代表者)楢山 恒雄	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	愛知県	株式会社H&Lプランテーション 鵜飼 敏之 鵜飼 浩	パンジー等(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	福岡県	高橋 三千年 高橋 節子	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	鹿児島県	小村 幸一	パキラ等(観葉植物)	
14回(16年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	大阪府	神藤 正和	ハボタン等(苗物)	
14回(16年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	大阪府	谷寄 隆雄	ハナモモ等(切り枝花木)	
14回(16年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	徳島県	尾崎 進一郎	シンビジウム(鉢物)	
14回(16年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀県	松永 宏隆	ユリ(切り花)	
14回(16年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長崎県	JA東長崎菊部会 (代表者)松尾 修一	キク(切り花)	
13回(15年度)	農林水産大臣賞	徳島県	有限会社岸本農園 岸本 昇 岸本 ときこ	ハイビスカス等(鉢物)	
13回(15年度)	農林水産大臣賞	鹿児島県	有限会社南原農園 南原 武博	ジャスミン等(切り花)	
13回(15年度)	生産局長賞	岐阜県	有限会社白木園芸 白木 和彦 白木 ふさ子	レッドロビン等(洋蘭・観葉植物)	
13回(15年度)	生産局長賞	佐賀県	宮崎 憲治	スイトピー等(切り花)	
13回(15年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐阜県	JAひだ花弁出荷組合 益田支部 (代表者)中川 剛	キク等(切り花)	
13回(15年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	愛知県	山田 則明	カーネーション等(切り花)	
13回(15年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	福岡県	緒方 久幸	ガーベラ(切り花)く	
13回(15年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長崎県	西海菊出荷組合 (代表者)川内 通良	キク(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備 考
12回(14年度)	農林水産大臣賞	愛知県	石井 義明	アルストロメリア(切り花)	第42回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
12回(14年度)	生産局長賞	埼玉県	成澤 勝司	マリーゴールド(苗物)	
12回(14年度)	生産局長賞	鹿児島県	柴崎 喜好	アイビー等(切り花)	
12回(14年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岩手県	石川 正樹 石川 結花	ユリ(切り花)	
12回(14年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐阜県	川端 芳彦 川端 葉子	ユリ等(切り花)	
12回(14年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	香川県	稲田 良弘	コチョウラン(鉢物)	
12回(14年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	香川県	小西 幸彦	マツ(盆栽)	
12回(14年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀県	徳永 健史	コチョウラン(切り花・鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	埼玉県	小林 滋幸	カランコエ((鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	長崎県	JA北高電照菊研究会 (代表者)大谷 虎次	キク(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	埼玉県	田中 勲	シクラメン等(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	岐阜県	河野 鉄博 河野 常子	ラナンキュラス等(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	愛知県	林 富造 林 房子	シンビジウム(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	佐賀県	菫蒲 正行	トルコギキョウ等(切り花)	
11回(13年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良県	中辻 栄治	キク(切り花)	
11回(13年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	広島県	石田 律恵	レースフラワー等(切り花)	
11回(13年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	徳島県	阿部 雅志	シンビジウム(鉢物)	
11回(13年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	香川県	森 崇	バラ(切り花)	
11回(13年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	福岡県	高辻 義邦	ユリ等(切り花)	
10回(12年度)	農林水産大臣賞	岐阜県	大西 隆	ミニバラ(鉢物)	第40回農林水産祭 天皇杯受賞
10回(12年度)	農林水産大臣賞	鹿児島県	沖永良部花き流通センター (代表者)泉 貞吉	テッポユリ等(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	群馬県	林 康夫	シクラメン等(鉢物)	
10回(12年度)	生産局長賞	香川県	農事組合法人香花園 (代表者)保坂重雄	カーネーション(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	大分県	有限会社メルヘンローズ (代表者)小畑和敏	バラ(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	沖縄県	玉城 哲弘	キク(切り花)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岩手県	谷藤 幸子	リンドウ等(切り花)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	山梨県	農事組合法人 白根フラワーコーポラティブ	インパチェンス等(鉢物)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	愛知県	伊奈 義就	キク(切り花)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	徳島県	宮脇 孝	キク(切り花)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	香川県	藤本 傳夫	キク(切り花)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	福岡県	中園 英治	キク(切り花)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長崎県	江頭 富春	カーネーション等(切り花)	
10回(12年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	鹿児島県	富田 良成	バラ(切り花)	
9回(11年度)	農林水産大臣賞	埼玉県	奥富 良雄	チューリップ等(苗物)	
9回(11年度)	農林水産大臣賞	愛知県	角田 隆幸	ハボタン等(苗物)	第39回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
9回(11年度)	農産園芸局長賞	宮城県	宮城県南三陸農業協同組合 花き部会	キク(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	山梨県	渡辺 喜市	サンダーソニア等(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	滋賀県	小杉 長男	シクラメン等(鉢物)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	沖縄県	大城 清利	キク(切り花)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岩手県	菅原 武男	リンドウ(切り花)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	栃木県	田代 正行	カーネーション(切り花)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	埼玉県	木村 実	バラ(切り花)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長野県	中村 元夫	ディフィニウム等(切り花)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良県	吉川 公彦	キク等(花苗)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	徳島県	朝海 常祐	キク(切り花)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	福岡県	高尾 保徳	ゴールドクレスト等(花木)	
9回(11年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長崎県	小嶺 敏博	コウチョウラン等(鉢物)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備 考
8回(10年度)	農林水産大臣賞	岐阜県	間宮 敏昭	ハイビスカス等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	福岡県	井上 茂之	トルコギキョウ等(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	埼玉県	戸谷 武雄	シュッコンアスター(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	静岡県	服部 一夫	クルクマ等(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	京都府	清水 幸雄	ケンガイキク(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	長崎県	鹿山 雅勝	カーネーション等(切り花)	
8回(10年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	新潟県	渡邊 和芳	ユリ(切り花)	
8回(10年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	三重県	松尾 廣文	シクラメン等(鉢物)	
8回(10年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良県	吉本 利郎	バラ(切り花)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	宮城県	平間 久義	ハーブ等(苗物)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	静岡県	とびあ浜松農業協同組合 PCガーベラ販売部会	ガーベラ(切り花)	第37回農林水産祭 天皇杯受賞
7回(9年度)	農産園芸局長賞	青森県	竹ノ原幸悦	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	埼玉県	立石 勝義	ポインセチア等(鉢物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	福岡県	南嶋精二郎	ペゴニア等(苗物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	長崎県	本田 敏秀	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐阜県	フローラぎふOKI	カランコエ(鉢物)	
7回(9年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	京都府	月本 雅治	バラ(切り花)	
7回(9年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	兵庫県	中岡 邦康	カーネーション(切り花)	
7回(9年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	大分県	市川 一清	スイトピー等(切り花)	
7回(9年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	沖縄県	渡久山 稔	キク(切り花)	
6回(8年度)	農林水産大臣賞	栃木県	菱沼 軍次	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	農林水産大臣賞	静岡県	大庭 孝史	パキラ等(観葉植物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	埼玉県	新 博之	カランコエ等(鉢物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	京都府	寺内 一郎	パンジー等(苗物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	福岡県	大隈 博幸	バラ等(切り花)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	沖縄県	外間 勝義	キク等(切り花)	
6回(8年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	宮城県	斉藤 達義	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	群馬県	小嶋 宏	バラ(切り花)	
6回(8年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐阜県	安保 幹太	シンビジウム等(鉢物)	
6回(8年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良県	堀田 泰規	プリムラ等(苗物)	
6回(8年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	高知県	広岡 稔	アイリス等(切り花)	
6回(8年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	高知県	小池 龍善	キク等(切り花)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	岐阜県	福田 誠	セントポーリア等(苗物)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	福岡県	波佐間 廣美	ディフェンバキア等(観葉植物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	群馬県	萩原 久雄	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	埼玉県	千野 純一	インパチェンス等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	大分県	飯田花き生産組合 (代表)時松 謙	バラ等(切り花)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	沖縄県	宮平 憲勇	キク(切り花)	
5回(7年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	宮城県	手島 徹	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長野県	金本 達夫	バラ(切り花)	
5回(7年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	京都府	矢野 伸太郎	ストック(切り花)	
5回(7年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良県	多田 護	ペニカナメモチ(植木)	
5回(7年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	佐賀県	水田 義雄	キク(切り花)	
4回(6年度)	農林水産大臣賞	宮城県	渡辺 俊	シクラメン等(鉢物)	
4回(6年度)	農林水産大臣賞	埼玉県	金子 正	カラジューム等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	群馬県	中山 忠義	洋ラン(切り花・鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	福岡県	和佐野 喜代太	コチョウラン等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	佐賀県	中江 広域	キク(切り花)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	大分県	志賀 智貴	ユリ(切り花)	
4回(6年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岩手県	木村 勇一	ブラグ苗等(苗物)	
4回(6年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	岐阜県	林 一郎	ポインセチア等(鉢物)	
4回(6年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良県	明崎 勝治	ダリア等(切り花・球根生産)	
4回(6年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長崎県	町田 一弘	スイトピー等(切り花)	
4回(6年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	鹿児島県	利田 正明	カーネーション等(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備 考
3回(5年度)	農林水産大臣賞	茨城県	鈴木 隆	ホウズキ等(鉢物)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	沖縄県	亀谷 英雄	キク等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	秋田県	三浦 康之	トルコギキョウ等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	群馬県	小内 敬一	アジサイ等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	埼玉県	矢作 文夫	カトレア等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	高知県	山崎 廣美	ユリ等(切り花)	
3回(5年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	京都府	森島 衛樹	ハナショウブ等(切り花)	
3回(5年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良県	吉川 喜一	シクラメン等(鉢物)	
3回(5年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	広島県	沖野 高人	(花木)	
3回(5年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	福岡県	田代 恒夫	バラ等(切り花)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	栃木県	渡辺 武雄	コチョウラン等(鉢物)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	静岡県	渡辺 偉	クレマチス等(苗物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	岩手県	畠山 正徳	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	群馬県	大沢 憲一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	東京都	浅沼 一治	フェニックス等(鉢物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	福岡県	和佐野 勝次	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	埼玉県	町田 静吾	バラ(切り花)	
2回(4年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	長野県	竹内 栄一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	京都府	今村 喜和	キク等(切り花)	
2回(4年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	奈良県	吉村 隆明	インパチェンス等(鉢物)	
2回(4年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	大分県	藤原 博文	キク(切り花)	
1回(3年度)	農林水産大臣賞	岩手県	猿子 恵久	アルストロメリア等(切り花)	
1回(3年度)	農林水産大臣賞	埼玉県	本多 忠夫	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	栃木県	菱沼 軍次	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	群馬県	阪本 正次	アジサイ等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	長野県	筒井 基博	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	岐阜県	河本 弘元	バラ(切り花)	
1回(3年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	静岡県	岩倉 廣治	(観葉植物)	
1回(3年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	京都府	完岡 義清	カキツバタ(切り花)	
1回(3年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	広島県	中本 博文	ハボタン等(苗物)	
1回(3年度)	財団法人日本花普及センター会長賞	大分県	時松 謙	バラ等(切り花)	

(参考資料2)

第22回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール実施要領

1. 目 的

我が国の園芸の将来を担い、かつ国民生活に潤いと安らぎをもたらすものとして重要な役割を担っている花きについて、生産分野の技術・経営の向上・発展を図ることを目的とする。

2. 開催団体

- (1) 主 催 財団法人日本花普及センター
- (2) 後 援 農林水産省
- (3) 協 賛 社団法人日本花き生産協会
社団法人日本花き卸売市場協会
社団法人全国農業改良普及支援協会

3. 出品資格

露地花きにあつては栽培面積が1 ha 以上、施設花きにあつては栽培面積が50 a 以上の花き生産を主とする農業者等であつて、技術・経営に優れ、地域社会に支持と共感を得ているものとする。

4. 出品方法

出品は、自薦、他薦を問わず、「花の国づくり共励会一花き技術・経営コンクール応募用紙（別添1、2）」に所定の事項を書き込み、それに基づく経営及び活動の記録等の必要な資料を添付して提出する。

5. 審査方法

(1) 予備審査

財団法人日本花普及センターは、自薦、他薦を問わず応募用紙が提出された出品財について、書類審査等により本審査の対象となる出品財を選考する。

(2) 本審査

別紙2の審査委員は、別紙1の審査基準に基づき書類審査、必要に応じて現地調査を実施して、公正な審査を行う。

6. 表 彰

- (1) 特に優秀と認められた出品財に対して農林水産大臣賞（2点）、優秀と認められた出品財に対して生産局長賞（4点）、財団法人日本花普及センター会長賞（数点）をそれぞれ授与する。
- (2) 農林水産大臣賞出品財は、国の定める「農林水産祭表彰要領」に基づき天皇杯等の選賞資格を有する。

(3) 次に掲げる基準のいずれかに該当し、かつ経営主の配偶者の貢献度が高いと認められる場合にあっては、夫婦連名で表彰することができる。

但し、農林水産祭参加行事の農林水産大臣賞並びに生産局長賞に限る。

① 家族経営協定を締結していること。

② 推薦書等において経営主の配偶者の作業分担、従事日数等が概ね5割に達していると確認できること。

③ 農業改良普及センターなどの現場指導組織による意見書が添付されていること

なお、推薦の段階で夫婦連名であるものについては、(財)日本花普及センター会長賞についてもこれに準ずる。

7. 事務局

標記コンクールを実施するため、事務局を(財)日本花普及センター内に設置す

8. 開催日程

- | | |
|------------|----------------|
| (1) 出品募集期間 | 平成24年9月～11月 |
| (2) 予備審査 | 平成24年12月 |
| (3) 本審査 | 平成25年1月下旬 |
| (4) 現地調査 | 平成25年2月上旬～2月中旬 |
| (5) 表彰式 | 平成25年3月中旬 |

(別紙 1)

花き技術・経営コンクール審査基準

- 1 立地条件を活かした合理的、安定的な経営であること
- 2 経営に計画性と展望をもち、近代化、拡大化の方向をたどっていること
- 3 消費動向を的確にとらえ、消費者ニーズに応える経営を行っていること
- 4 栽培技術は、科学的基礎に基づき、その水準が高く優れ、改善意欲が盛んなこと
- 5 生産基盤の整備、資本整備の投資がかなり行われ、その利用効率が高いこと
- 6 土地利用及び労働力利用が合理的であること
- 7 生産性が高く所得が水準以上と認められること
- 8 労働軽減等により、ゆとりある農業を実現していること
- 9 環境保全に対する工夫や配慮が見られること
- 10 国際化対応を考慮した経営がなされていること

(別紙 2)

第22回(平成24年度) 花き技術・経営コンクール審査委員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
腰岡政二	日本大学生物資源科学部 教授
土井元章	京都大学大学院 教授
河野恵伸	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 食農連携プロジェクト リーダー
長村智司	大阪テクノホルティ園芸専門学校 校長 社団法人フラワーソサエティ 会長
田島鉄弥	社団法人日本花き生産協会 会長
長岡 求	株式会社フラワーオークションジャパン 取締役経営企画室長

第 2 2 回花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール受賞者の業績概要

平成 2 5 年 3 月発行

編集・発行 財団法人日本花普及センター

〒103-0004 東京都中央区東日本橋 3－6－1 7 山一ビル 4 階

TEL : 0 3－3 6 6 4－8 7 3 9 FAX : 0 3－3 6 6 4－8 7 4 3

e-mail : jfpc.@jfpc.or.jp

URL : <http://www.jfpc.or.jp>



いいこと
あった日、
花を買う。

花っていいよね。キャンペーン